**2020年6月30日(火)**

**初等外国語教育法1組（12時50分～）**

**初等外国語教育法２組（14時40分～）**

**“Tell me and I will forget, show me and I may remember, involve me and I will learn.”**

**“現実感覚がなければ生きていられない。理想を持てなかったら、生きている資格がない。”（レイモンド･チャンドラー『プレイバック』より）**

〇前回のメールで，本日は第8章と9章をやりますと連絡しましたが，第8章のみを取り上げたいと思います。

〇第8章で学んだことを踏まえて実際の授業動画を視聴します。その後，グループディスカッションを行います。

第8章　教材研究②－児童が創意工夫し，生き生きと英語を使う活動

1節　望ましい活動の条件と改善・開発の視点

１．望ましい活動の条件

1)　伝える内容に自己と関連性がある。

2)　他者と関わり合いを持つ必然性が内包されている。

3)　場面・状況や条件などが具体的に設定されている。

4)　使用する語彙・表現や伝える内容に，限定的であっても自由度がある。

5)　目的達成の手段として活動が位置付けられている。

２．改善・開発の視点

1)　児童の実態や発達段階，興味・関心に合い，知的好奇心を満たすことができ，児童が創造性を十分に発揮し得る題材や内容にする。

2)　児童の作品や絵などの非言語情報も活用して，児童の限定的な言語使用をうまく補う工夫をする。

3)　各単元で目標とする言語材料だけでなく，既習の言語材料を適切に取り入れて，児童が表現する内容の幅を広げるとともに，既習事項にスパイラルに慣れ親しむ機会とする。

4)　異文化理解や環境教育などのテーマを扱う単元に関連付け，児童が考えたり話し合ったりする体験を通して，国際理解の視点を養っていけるような活動を計画する。

5)　個人，ペア，グループ，あるいはクラス全体など，活動内容に応じた適切な活動形態を工夫する。なお，ペアワークの場合は，特定の相手に限定して伝える場合（fixed pair work）と不特定多数の相手に対して伝える場合（flexible pair work）を適切に使い分ける。

※レディネスを保障してから活動に入ることが大切。

2節　創意工夫し，英語を生き生きと使う活動

１．コミュニケーション・自己表現活動

・活動中の児童の意識が，意味やメッセージのやり取りに自然に向けられるように活動を設計する必要がある。

・人と関わる時に求められるマナーについても体験的に学ぶ機会となるように指導する。

活動例１

・ワークシートの完成を急ぐあまり，コミュニケーションのマナーがいい加減になりがちである。視線はワークシートではなくはない相手に向けるように意識づける。

活動例２

活動例３

活動例４

２　国際理解活動

・他国の生活文化に関する知識を学んだり，他文化の人々と積極的に接しようとする態度を身に付けたりする過程で，自国の生活や文化を客観的に見つめる視点を養い自分達の日常が他国の人々と直接的・間接的に密接に関わっている点を意識させることが大切である。

・活動を継続的かつ計画的に体験させ，自尊感情や他者尊重の態度を養い，多様な価値観への気付きを促していく指導観も不可欠である。

活動例

３．プロジェクト活動

活動例

４．国際交流活動

1)　他国・自国の文化間の類似点や相違点を知り，異文化理解が深まると同時に，日本人としての自覚を持つことができる。

2)　「相手に分かってもらいたい」と懸命に英語で伝えることで，コミュニケーション力が向上し，活動後は，英語学習への意欲が高まる。

3)　生活習慣をはじめとした多様な文化や物事の見方・考え方に触れ，多面的な知識を獲得することができる。また，グローバルな視野にたって，ともによりよい社会を築こうとする態度が養われる。

活動例